

さらに「監視フォルダ毎に対象ファイルの設定をする」のチェックをオンにすれば、フォルダごとにファイルの種類を指定して、より細かい監視ができるようになります（図14）。表示されているフォルダを選択して「フォルダ毎に設定する」をクリックし、監視するファイルの種類を登録します。「区分」が「共通」になっているものは、上に表示されている共通の設定を使用します（図15）。

もう1つ、特にネットワークを使う会社のパソコンで便利な設定をしておきましょう。左側メニューの「その他の設定」をクリックして、「監視するフォルダにアクセスできない場合、メッセージを表示する」のチェックをオンにして、「毎回表示する」を選択し、任意のメッセージを入力します（図16）。この設定をしておくと、ネットワーク上の共有フォルダを監視している場合に何らかの原因でネットワークが切断されているとメッセージが表示されるようになり、ネットワークのトラブルを知るとともに、更新のチェック漏れも防ぐことができます。ただし外出して持ち歩くノートパソコンなどでこの設定を指定してしまうと、外出中に頻繁にメッセージが表示されてしまうので、使用はあくまで机上のパソコンで行なってください。

1つのファイルを複数のユーザーで共有する作業はグループワークや大きなプロジェクトで頻繁に行なわれる操作です。「フォルダ監視」を使ってファイルの更新状況を素早く把握すれば、速やかに次の仕事の実行できるようになり、仕事の効率や生産性がアップするでしょう。

図11

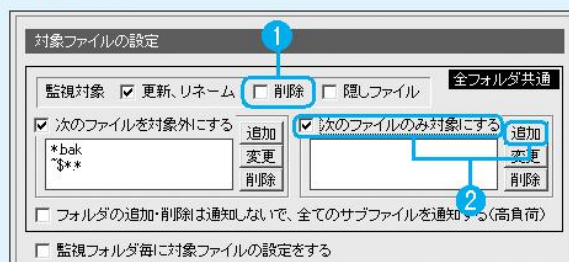


図12

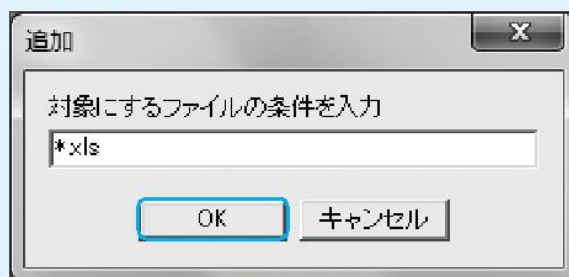


図13

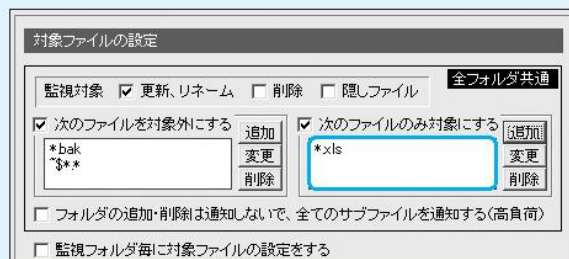


図14

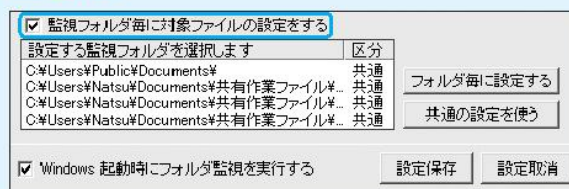


図15

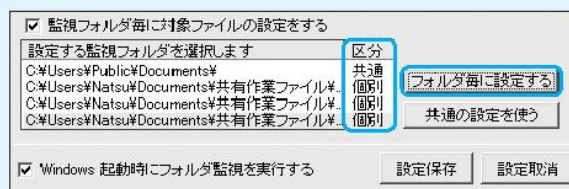


図16

